

安全安心な鉄道利用に向けて「エキマトペ」の実証実験を開始 ～共生社会の実現に向けて～

- JR 東日本グループでは、すべての人を包摂する便利で快適な質の高いサービスの提供と地域と協働した活気あるまちづくりを重要課題とし、共生社会の実現に向けて取り組んでいます。
- このたび、富士通株式会社(以下、富士通)、東日本旅客鉄道株式会社(以下、JR 東日本)と株式会社 JR 東日本クロスステーション(以下 JR 東日本クロスステーション)は、2025年2月25日から3月31日までの間、上野駅の1・2番線(京浜東北線と山手線)ホームに流れるアナウンスや電車の発着などの音情報を文字や手話で表現する実証実験を行います。
- 本実証実験を通じて、聴覚障害のある方をはじめとする駅をご利用のお客さまの、より安全安心な鉄道利用を実現するとともに、ダイバーシティ&インクルージョンへの相互理解の促進を目指します。

1. 実証実験の背景

富士通とJR 東日本は、2021年7月に川崎市立聾学校で開催された「未来の通学」をテーマとしたワークショップをきっかけに、誰もが使いやすく、毎日の鉄道利用が楽しくなるような体験を目指して、駅のアナウンスや電車の音といった音情報を文字や手話で視覚的に表現する装置「エキマトペ」の開発プロジェクトをスタートしました。

第一弾では2021年9月13日から15日の3日間、JR 巣鴨駅にて駅ホームに流れる音を視覚化する実証実験を行いました。第二弾のJR 上野駅での実証実験では、2022年6月15日から12月14日までの間、JR 東日本クロスステーションの参画により、社会実装に向けてさらなる省スペース化やコスト削減を意識した「エキマトペ」の筐体の改善を行いました。今回の第三弾では、主に以下3点を改善しています。

- ・国際手話の映像表示を追加 ※青囲み部分
- ・日本手話に映像表示を変更(今回は日本語対应手話) ※赤囲み部分

※日本手話は当社の聴覚に障害のある社員が出演



- ・表示画面、アニメーションのデザインを変更

オノマトペは中央に電車などのイラストを配置し、また手話を大きく画面上に表示することによって、よりわかりやすく見やすいデザインを取り入れた

2. 各社の役割

<富士通>

- ・「エキマトペ」を活用したシステム設計および開発、事業の検討
- ・駅の音情報の機械学習およびそれらを識別する AI モデルの構築

<JR東日本>

- ・JR上野駅構内における「エキマトペ」の設置場所の提供
- ・AIモデルの構築にあたり機械学習させる音声などのデータ提供

<JR東日本クロスステーション>

- ・「エキマトペ」を固定する自動販売機の提供

3. 今後について

今後、富士通とJR東日本、JR東日本クロスステーションは、本実証実験を通して得られた知見や駅をご利用のお客さまからの「エキマトペ」の体験に関するフィードバックをもとに、駅の利便性の向上に向けた検討を進め、質の高いサービスの提供を実現していきます。